OurPlanet-TV

東電テレビ会議
４９時間の記録

「本店！本店！大変です！３号機が爆発しました」

故吉田昌郎元所長の緊迫した声を覚えている人は多いだろう。福島第一原発事故の対応をつぶさに記録した第一級の映像資料「東電テレビ会議映像」が遂に長編映像として一般公開される。

本作品は、非営利メディア OurPlanetTV が「福島映像祭 2013」で上映するために、独自編集した報道ドキュメントである。映像は、福島オフサイトセンター、東電本店、 福島第 1 原発、福島第 2 原発、柏崎刈羽原発を結ぶテレビ会議の分割画面のみ。しかし緊迫した現場の声には、どんな映像よりも臨場感と迫力がある。

１号機が爆発。次第に３号機の原子炉水位も低くなり、刻々とメルトダウンが近づいてくる様子。本店の調達が後手後手に周り、バッテリー、ガソリン、水、食糧が不足する現場。打つ手打つ手が、ことごとく失敗する中、２号機、４号機にも危機が迫る様子。そして、ついに、作業員退避の検討がはじまる。

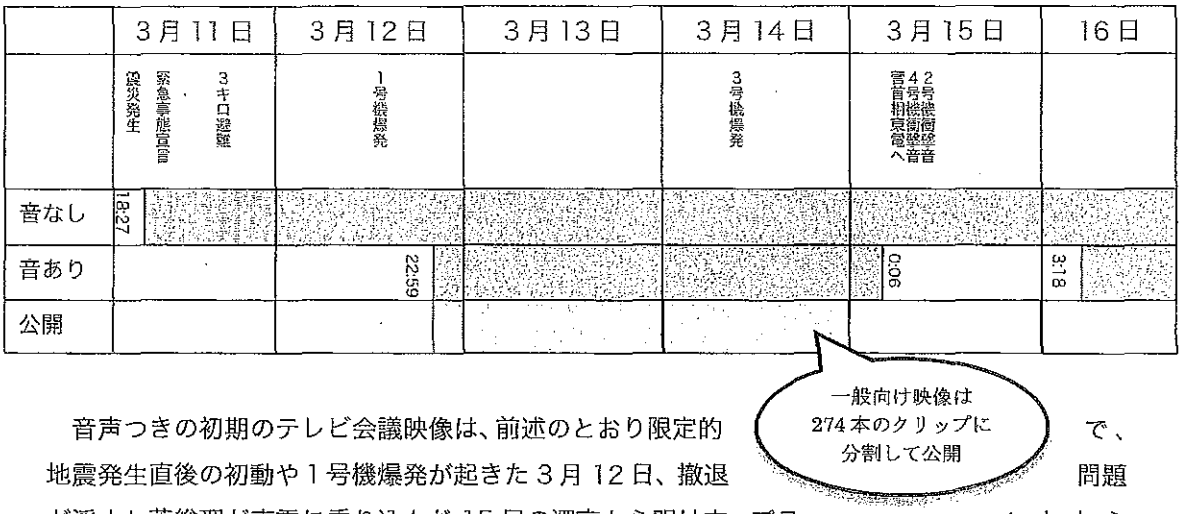
使用した映像は、既にインターネット上には公開されているものだ。しかし、その映像は細切れな上、誰が発言しているかが分からないという問題があった。作品では、なるべく状況がわかるように、基本的な情報を挿入した。2011 年 3 月 12 日から 15 日までの 3 日間、福島第一原発で何が起きていたのか。当時の中央制御室と同じ真っ暗な環境で、あの時間、あの原点に立ち戻る体験を共有したい。

（OurPlanetTV 白石草）

東電テレビ映像とは

「東電テレビ映像」とは、福島第一原子力発電所の事故当時、東京電力本店の２階にある非常災害対策室と福島第一、第二、柏崎刈羽原発非常災害対策室、オフサイトセンターの間を結んだテレビ会議の様子をそのまま録画した映像を指す。

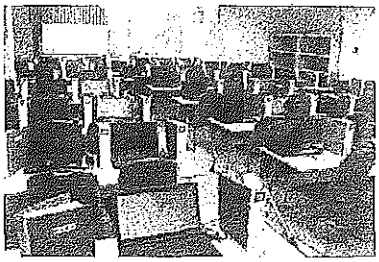
東京電力によると、映像の録画をはじめたのは３月 11 日の午後６時 27 分から。そのうち、設定ミスやハードディスク容量の問題などで、音声が記録されている映像があるのは、３月 12 日 22 時 59 分から５月 15 日０時６分までと、その後、約１日空けて 16 日３時 18 分以降から４月６日までの約 650 時間分だ。OurPlanetTV では、このうち、３月 12 日から 15 日までの 49 時間の映像のうち、一般公開されている約 10 時間分を編集して前編１時間 47 分、後編１時間 39 分、計３時間 26 分にまとめた。



音声つきの初期のテレビ会議映像は、前述のとおり限定的で、地震発生直後の初動や１号機爆発が起きた３月 12 日、撤退問題が浮上し菅総理が東電に乗り込んだ 15 日の深夜から明け方、プラントから衝撃音が聞こえ、高濃度の放射能が広がった 15 日の昼間の様子は存在しないと主張する。また、「社員のプライバシー」を守るとの名の下、画像人はモザイクが入り、音声分の固有名詞にはピー音が入る。しかも現在、東京電力は、マスメディアに対しては、上記の映像を全て公開しているものの、一般市民に対しては、更に限定的な細切れの映像をインターネット上に公開しているのみである。

従って、一般公開された素材のみを利用した本映像「東電テレビ会議　49 時間の記録」は、肝心な部分が欠けた限定的な内容と言わざるを得ない。しかし、そうであっても、この映像は事故の検証には欠かせない「一次資料」である。実際、政府事故調や国会事故調など、公的な事故調査においても重要な役割を果たした。

なお、東電テレビ会議映像はその存在が明らかになって以降も、容易に公開にされなかった。事故から１年半を経て、朝日新聞のキャンペーン報道や東電株主代表訴訟原告団らの保全の申立てなどを経て、ようやく公開された。朝日新聞の同キャンペーン報道は、2013年度の石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム賞奨励賞（公共奉仕部門）の奨励賞を受賞している。


東電テレビ会議映像のマスコミ向け試写室（2012年8月6日）

東電テレビ会議の開示に至る経緯

2011年

3月11日　東日本大震災が発生

5月中旬　フリーランスを中心に、東電に対してテレビ会議の映像記録の公開を求める声
東電は「社内資料だ」と公表を拒む。

2012年

6月28日　朝日新聞が、東電株主代表訴訟原告団がテレビ会議映像を証拠として東京地裁に保全を申し立てる方針であると報道。

6月29日　東電株主代表訴訟原告団がテレビ会議映像記録の保全申請を東京地裁に申し立て。

6月30日　朝日新聞朝刊に枝野幸男経産大臣の単独インタビューが掲載。枝野氏は「出さない理由が分からない」と公開を拒否する東電の姿勢を批判。

7月10日　枝野幸男経産大臣が参院予算委で東電に対して公開するよう「事実上の行政指導をした」と述べる。

7月12日　東電がテレビ会議映像記録を公開すると発表。

7月27日　東電がテレビ会議映像記録の公開方法を明らかに。取材時の録音や録画は禁止。東電の事故調査報告書で名前が記載された社員以外の氏名を報道しないよう求める。
また視聴に当たり、署名記入の同意書の提出要求。「名ばかり公開」と批判高まる。

7月31日　東電が記者会見上、上記「取材・報道規制」を撤回しない方針を明らかにする。

8月3日　日本新聞協会が全面公開と「取材・報道規制」の撤廃を求める声明発表。

8月6日　東電がテレビ会議の加工映像を部分開示。取材・報道規制は撤回せず。
開示対象は報道に携わる者だけで、一般にはごく一部をインターネットで開示。

この部分開示以降、追加開示を経て現在では3月11日から計1カ月分の加工映像をジャーナリスト向けに開示している。全面公開には応じず、視聴時の録音や録画を禁止する方針は撤回していない。一般へのインターネットを通じた開示も一部にとどまっている。(作成 木村英昭)

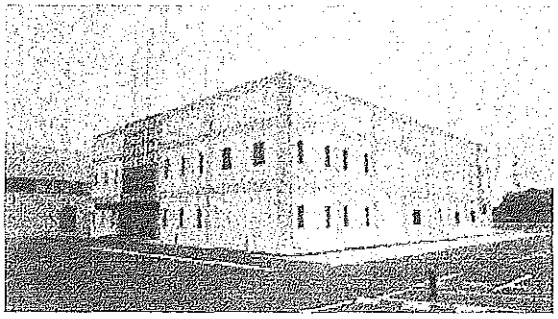
前編（1時間47分）

前編は3月12日深夜22時59分から13日までの約25時間を1時間47分に編集した。
前日の3月12日は午後3時36分に1号機が水素爆発し、原発周辺地域の放射線量は既に大幅に上がっていた。10キロ圏内の住民へ出されていた避難指示が、午後6時半すぎ20キロに拡大。録画はこの日の22時59分、東電の武黒フェローが官邸から東電本店の戻り、民主党政権に対する苦言を述べる場面からはじまる。

◎ この日の動き

１３日は、３号機の注水がうまくいかず、水源の確保に追われる一日となる。また、ガソリン、エンジン、車両、果ては現金など、あらゆる物資が不足し、その調達に苦しむ姿がわかる。

2時42分　３号機の高圧注水系（HCPI）停止
3時52分　吉田所長が３号機のHCPIが停止と原子炉圧力の気づき報告
4時24分　福島第一原発でガソリンが欠乏。そのほか、物資調達に追われる。
5時58分　3号機が原子炉冷却機能を喪失し、緊急事態を通報
6時50分　保安班が線量の上昇で注意喚起
8時08分　重要免震棟で放射線量が毎時７０μSvに上昇
8時26分　１号の機燃料プールの温度上昇を報告。氷を入れる方向で調整
9時30分　３号機のベントをしたと報告
11時56分　４号機の核燃料プールが７８度に上昇と報告
13時11分　３号機の海水注入を開始
14時07分　３号機の水素爆発回避策の本格検討がはじまる。



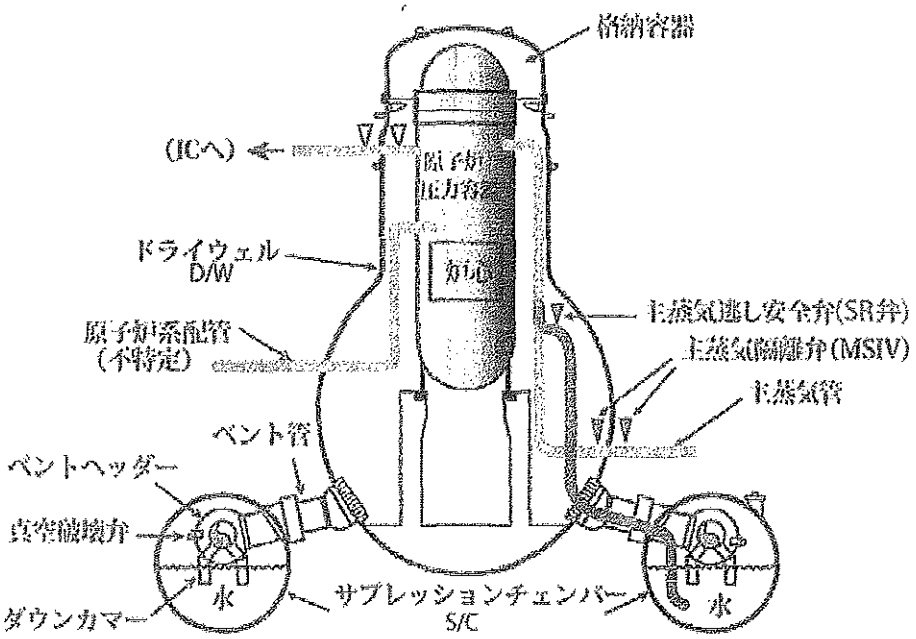
免震重要棟(左:外観、右:緊急対策本部)

後編（1時間39分）

後編は3月14日の２４時間を１時間３９分に編集した。東京では、計画停電が予定されていた14日。この日は、３号機が水素爆発し、更に２号機が危機的な状況に陥る。ベントには、水を通してベントするウエットベントと水を通さないドライベントがあるが、２号機では、大量の放射性物質を放出する恐れのあるドライベントをせざるをえない状況に追い込まれて行く。夕方を超えると東電本店の動きが激しくなり、作業員の撤退問題が浮上する。

◎ この日の動き

5時36分　３号機の圧力が再上昇
6時25分　３号機の燃料棒の全露出が判明
6時42分　吉田所長が、福島第一原発作業員を一時退避
11時01分　３号機原子炉建屋が爆発
13時30分　２号機の圧力上昇。SR弁が勝手に数回開く。
14時03分　被ばく線量の上限が100mSvから250mSvに引き上げられたことが伝わる。
16時14分　２号機への注水方法を巡り、班目委員長が介入。東電側の案と対立する。
16時34分　班目委員長の案に従って２号機原子炉の減圧操作を作業するが、うまくいかず。
18時01分　２号機減圧開始するが、水位は回復せず。
18時28分　消防車の燃料切れが発覚
19時～　　２号機の危機的状況へ
20時～　　サイトからの全員避難が議論され出す
21時37分　第一原発正門で毎時3.13mSvのガンマ線測定
23時33分　ドライベント実施へ



登場人物

福島第一原子力発電所

吉田昌郎（よしだ・まさひお）
東京工業大学工学部卒、同大学院原子核工学専攻修了。1979 年入社。原子力保修課、福島第二原発の発電部長、本店の原子力設備管理部長を経て、2010 年 6 月から福島第一原発所長。

オフサイトセンター→本店

武藤栄（むとう・さかえ）
東京大学工学部原子力工学科卒。カリフォルニア大学バークレー校工学部修士課程修了。1974 年入社。福島第一原発の技術部長や本店の原子燃料サイクル部長を歴任。2010 年から原子力・立地本部長を兼任する副社長。

本店→オフサイトセンター

小森明生（こもり・あきお）
東京大学工学部卒、同大学院機械工学専攻修了。1978 年入社。福島第一原発の所長を経て、原子力・立地本部の副本部長を兼任する常務取締役。原子力緊急時対策本部では当初、本部長である清水社長の代行を務めた。

東京電力本店

勝俣恒久（かつまた・つねひさ）
東京大学経済学部卒業。1963 年入社。企画部長を経て、2002 年 10 月に社長就任。08 年、代表権を保持したまま、会長に就任。

清水正孝（しみず・まさたか）
慶應義塾大学経済学部卒業。1968 年入社。資材計画課長や資材部長を経て、2008 年社長就任。電気事業連合会会長、日本経団連副会長。原子力緊急時対策本部の本部長を務めた。

高橋明男（たかはし・あきお）
福島第二原発や柏崎刈羽原発の所長を歴任。2010 年からフェロー（執行役員待遇）

首相官邸⇔東電本店

武黒一郎（たけぐろ・いちろう）
東京大学工学部卒。1969 年入社。柏崎刈羽原発所長や原子力・立地本部長、副社長を経て、２０１０年からフェロー（副社長待遇）。事故時に官邸と東電との連絡役を務めた。

参考資料

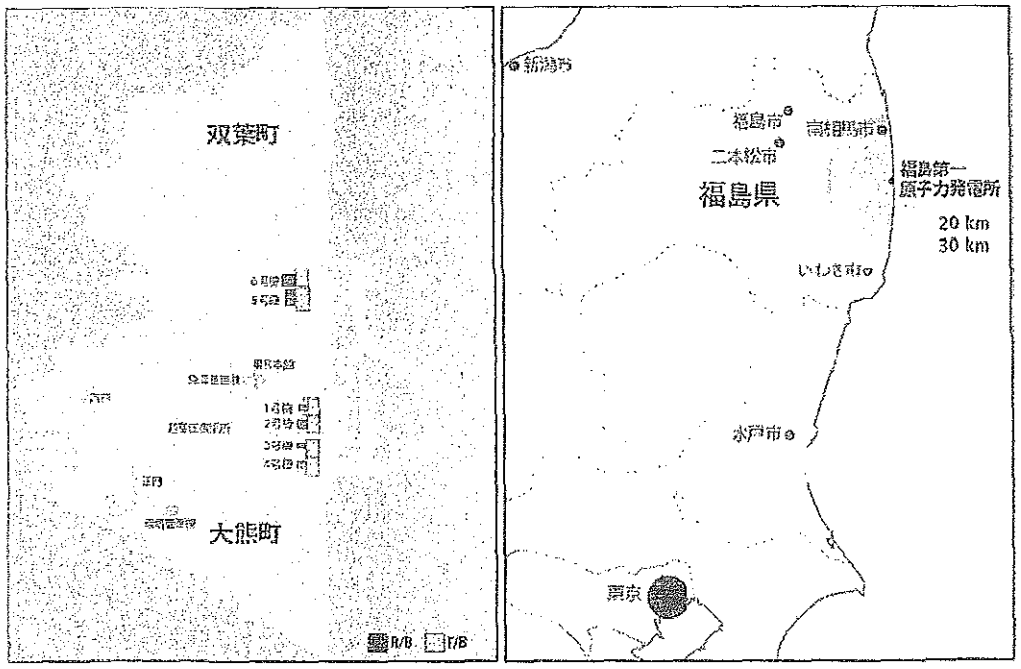
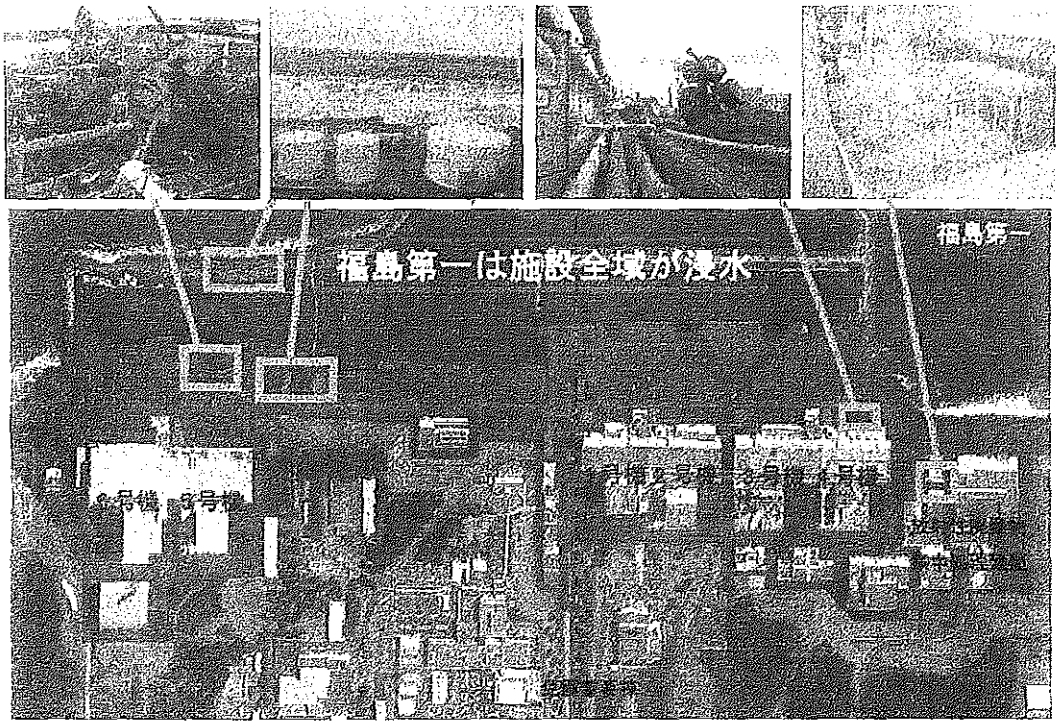
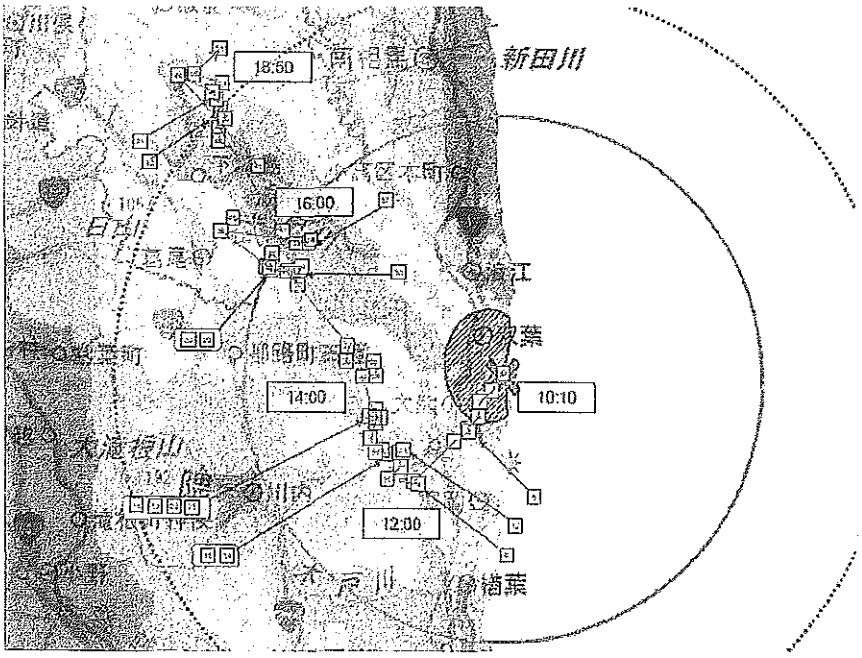


図1．1．1−1　福島第一原発の位置図（右）と主要施設の配置図（左）。（左）図のR/Bは原子炉建屋、





3月15日　10時過ぎの2号機建屋放出時に放出された「蒸気雲」の軌跡

■参考図書

「福島原発事故　タイムライン 2011-2012」宮﨑知己、木村英昭、小林剛（岩波書店）
「福島原発事故　東電テレビ会議 49 時間の記録」宮﨑知己、木村英昭（岩波書店）
「国会事故調　報告書」東京電力福島原子力発電所事故委員会
「政府事故調 中間・最終報告書」東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会

■制作ファイル

映像記録：東京電力株式会社
編集協力：木村英昭（朝日新聞）
編集：平野隆章(OurPlanetTV)
宣伝：高木祥衣(OurPlanetTV)
制作統括：白石草(OurPlanetTV)
製作：特定非営利活動法人 OurPlanetTV
（2013 年／SD／3：2／日本／206min）

福島映像祭 2013 OurPlanet-TV